

4. 実証研究の具体的な実施内容及び実施方法等

(1) 協議体の設置

① 学校運営協議会の設置

- 地域住民や保護者のほか、大学、企業、小・中学校などの関係者等、学校運営の改善や特色ある学校づくりに資する多様な人材を構成員とする学校運営協議会を、学校の実状に応じて設置する。学校運営協議会委員の選出にあたっては、2018年度の受託研究の成果を生かし、学校が必要とする支援が得られやすいよう、学校が次年度に取り組む内容に関連のある機関や団体等の関係者を中心として候補者を選定した。

② 実証研究委員会の設置

- 学校運営協議会委員、研究指定校の校長・教頭・事務長、地域連携教育エキスパート（県が委嘱する地域連携教育推進のための指導・助言者；文科省CSマイスター、大学教授）、県教委事務局職員（本調査研究事業の推進役）を構成員とする「実証研究委員会」を指定校2校にそれぞれ設置し、モデルプランの企画立案及び実施の支援など、事業の総合的な推進を図る。
- 実証研究委員会委員のうち、学校運営協議会の会長・副会長、研究指定校の校長・教頭・事務長、地域連携教育エキスパート、県教委事務局職員による「企画会議」を開催し、モデルプラン作成の方向性、実施状況の把握と改善策、成果の検証方法や成果指標等について協議した内容を実証研究委員会に提示することで、協議の円滑な進行と深化を図る。

(2) モデルプランの策定

- ###### ① 地域や学校・学科の特性に応じた特色ある学校づくりを進めるにあたり、「めざす学校像」「育てたい生徒像」及び「学校の研究テーマ」を実証研究委員会で共有

学校の研究テーマ

【柳井商工高校】

地域と共生し、地域を支える人材を育成する学校づくり
～地域と協働、共汗する学校運営の推進について～

【厚狭高校】

「地域に貢献できる人材の育成」に向けたカリキュラム・マネジメントの実現に資する、地域による学校への支援体制づくりについて

- ###### ② モデルプランについての協議（企画会議 ⇒ 全体会）

ア 企画会議において、次の項目等について具体的に協議し、①の学校の研究テーマを実現するための学校運営協議会運営の運営計画（モデルプラン）の案を作成する。その際、委員と教職員との熟議、委員と生徒との熟議、委員による授業・取組の参観等、2018年度の受託研究において成果が得られた学校運営協議会活性化の工夫点等を取り入れる方向で検討する。

- ・ 学校運営協議会の年間実施回数、時期
- ・ 各学校運営協議会の協議内容、方法
- ・ 学校運営協議会委員による授業、行事等への参加計画
- ・ 学校運営協議会委員を対象とした研修の内容、方法、時期
- ・ 高校等コミュニティ・スクール連絡会議、県コミュニティ・スクール大会、地域とともにある学校づくり推進フォーラム、専門家による講演会、大学等訪問研修、先進校視察 等
- ・ 学校運営協議会委員の役割分担（それぞれの立場を生かした学校への具体的な関わりや支援の方法）
- ・ 教員との協働についての具体的方策
- ・ 成果の検証方法、成果指標（アンケート項目）

イ アで作成した案を、実証研究委員会において、様々な立場の委員により検討し、モデルプランを策定する。

(3) モデルプランの実践

【山口県教育委員会】

① 協議体の設置

- 研究指定校の2校に学校運営協議会及び実証研究委員会を設置

② モデルプランを策定

- 学校運営協議会前に学校運営協議会の会長・副会長、研究指定校の校長・教頭・事務長、地域連携教育エキスパート、県教委事務局職員による「企画会議」を開催
- 学校運営協議会後に学校運営協議会の会長・副会長、研究指定校の校長・教頭・事務長、地域連携教育エキスパート、県教委事務局職員による「振り返り」を実施

③ モデルプランについての協議

【柳井商工高校】

- 柳井商工高校 第1回学校運営協議会兼実証研究委員会
(ア) 日 時：7月9日(火) 14:30~17:00
(イ) 参加者：学校運営協議会委員12名、教職員9名、県教委事務局職員1名、生徒(生徒会役員)5名
- 柳井商工高校 第1回振り返り
(ア) 日 時：7月9日(火) 17:30~18:00
(イ) 参加者：校長、教頭、事務長、県教委事務局職員1名
- 柳井商工高校 第2回学校運営協議会兼実証研究委員会
(ア) 日 時：10月16日(水) 13:15~16:00
(イ) 参加者：学校運営協議会委員8名、教職員9名、県教委事務局職員1名、地域連携教育エキスパート1名、生徒(研究発表)4名
- 柳井商工高校 第2回振り返り
(ア) 日 時：10月16日(水) 16:10~17:10
(イ) 参加者：校長、教頭、事務長、県教委事務局職員1名、地域連携教育エキスパート1名
- 柳井商工高校 第3回企画会議
(ア) 日 時：1月16日(木) 13:30~14:30
(イ) 参加者：校長、教頭、県教委事務局職員1名、地域連携教育エキスパート1名
- 柳井商工高校 第3回学校運営協議会兼実証研究委員会
(ア) 日 時：1月30日(木) 10:10~12:00
(イ) 参加者：学校運営協議会委員10名、教職員9名、県教委事務局職員1名、地域連携教育エキスパート1名、生徒(生徒会役員)5名
- 第3回振り返り
(ア) 日 時：1月30日(木) 12:00~12:45
(イ) 参加者：校長、教頭、事務長、県教委事務局職員1名、地域連携教育エキスパート1名

【厚狭高校】

- 厚狭高校 第1回企画会議
(ア) 日 時：6月20日(木) 16:00~17:00
(イ) 参加者：校長、教頭2名、事務長、地域連携教育担当教員2名、学校運営協議会委員2名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名
- 厚狭高校 第1回学校運営協議会兼実証研究委員会
(ア) 日 時：7月1日(月) 15:30~17:00
(イ) 参加者：学校運営協議会委員12名、教職員5名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名
- 厚狭高校 第1回振り返り
(ア) 日 時：7月1日(月) 17:00~18:00
(イ) 参加者：校長、教頭、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名
- 厚狭高校 第2回企画会議
(ア) 日 時：11月8日(金) 15:00~16:00
(イ) 参加者：校長、教頭2名、事務長、地域連携教育担当教員2名、学校運営協議会委員2名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名
- 厚狭高校 第2回学校運営協議会兼実証研究委員会
(ア) 日 時：11月18日(月) 15:30~17:30
(イ) 参加者：学校運営協議会委員11名、生徒8名、教職員8名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名
- 厚狭高校 第2回振り返り
(ア) 日 時：11月18日(月) 17:30~18:00

- (イ) 参加者：校長、教頭、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名
- 厚狭高校 第3回企画会議
- (ア) 日 時：2月10日(月) 15:00~16:00
- (イ) 参加者：校長、教頭2名、事務長、地域連携教育担当教員2名、学校運営協議会委員2名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名
- 厚狭高校 第3回学校運営協議会兼実証研究委員会
- (ア) 日 時：2月21日(金) 14:30~16:45
- (イ) 参加者：学校運営協議会委員6名、教職員9名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名
- 厚狭高校 第3回振り返り
- (ア) 日 時：2月21日(金) 16:45~17:15
- (イ) 参加者：校長、教頭、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名

④ その他

- 2019年度「学校運営協議会と地域学校協働本部の設置・拡充に向けた調査研究事業」担当者会議
- (ア) 日 時：7月5日(金) 14:00~17:00
- (イ) 参加者：県教委事務局職員1名
- (ウ) 主な内容：
 - a 趣旨説明
 - ・ 事業内容・事務手続き等
 - b 研究協議「そもそもコミュニティ・スクール、地域学校協働活動を推進するのはなぜか？」
 - ・ 「ゴールデンサークル」を用いたグループワーク
 - c 研究協議「平成30年度委託事業から学ぶ」
 - ・ 昨年度の事業内容の資料を見て、各自の「気になる度」を紹介する。
 - ・ グループごとのランキングを決定し、グループごとに発表する。
- 令和元年度全国高等学校教育改革研究協議会
- (ア) 日 時：10月23日(水) 10:00~17:00
- (イ) 会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)
- (ウ) 参加者：県教委事務局職員1名
- (エ) 主な内容：
 - a 行政説明「地域経済分析システム(RESAS)について」
 - b 選択協議「地域との連携・協働による新しい高等学校づくり」
- 高校等コミュニティ・スクール連絡会議(県東部・県西部・県中部地域)
- (ア) 日 時：12月16日(月) 10:00~12:00(県中部地域)
12月19日(木) 13:00~15:00(県東部地域)
12月20日(金) 13:00~15:00(県西部地域)
- (イ) 会 場：山口県庁共用第2会議室(県中部地域)
柳井総合庁舎大会議室(県東部地域)
下関市教育センター中研修室(県西部地域)
- (ウ) 参加校：16校(県中部地域)
15校(県東部地域)
12校(県西部地域)
- (エ) 主な内容：
 - a 所管説明「コミュニティ・スクールの取組の充実のために」
 - b 報告・協議
学校運営協議会の充実について
- (オ) その他：研究指定校による実践について所管説明で説明するとともに、会議終了後に資料の電子媒体を全公立高校等に送付し情報共有を図った。
- 令和2年度「学校を核とした地域力強化プラン」の予算案に係るブロック説明会
- (ア) 日 時：2月3日(月) 13:30~16:00
- (イ) 会 場：ワークピア広島(広島市)
- (ウ) 参加者：県教委事務局職員1名

【柳井商工高校】

① 第1回企画会議

(ア) 日 時：7月3日(水) 16:00～17:00

(イ) 参加者：校長1名、地域連携教育エキスパート1名

(ウ) 主な内容：

- a コミュニティ・スクール導入の目的を示す。
- b 学校経営方針を示す。
- c 協議会で出た意見を学校運営に反映する。

② 第1回学校運営協議会兼実証研究委員会

(ア) 日 時：7月9日(火) 14:30～17:00

(イ) 参加者：学校運営協議会委員12名、教職員9名、県教委事務局職員1名、生徒(生徒会役員)5名

(ウ) 主な内容：

- a 全体会
趣旨・概要説明
・ コミュニティ・スクール概要説明(高校はテーマ型コミュニティ・スクール)
・ 柳井商工高校コミュニティ・スクールの目的について
テーマ 「地域と共生する学校」
目的
1 柳井商工高校の持つ専門性を生かし、地域との協働を行うことにより、地域の活性化に貢献するとともに、学校経営の充実につとめる。
2 商工連携や商業・工業の教員の持つ専門性を生かし、地域ニーズに応える地域連携(まちづくり)を行う。
3 地域、企業、異校種、他学科、PTAと幅広く連携をすすめていくことにより、相互の発展につとめる。
4 地域連携(まちづくり)を行うことにより、生徒の地域への愛着を高め、将来地域の発展を担う人材を育成する。
5 学校運営協議会への生徒の参加により、生徒の主体性、主権者意識を高める。
→ 柳井商工高校コミュニティ・スクールの方向性を共有
- b 分科会
「学校運営、地域との共生、小中高連携への諸課題」部会
・ 委員は、企業、同窓会、小学校・中学校関係者で構成
・ プレーンストーミング法による生徒育成についての意見聴取
・ 企業、小学校、中学校の立場から、高校が身につけさせて欲しい能力の育成について提言
→ コミュニケーション能力、情報収集能力の育成を学校経営に重点的に取り入れていくこととする。
「キャリア教育、地域社会に貢献する産業人の育成」部会
・ 委員は、地域関係者、同窓生、元企業役員で構成
・ 学校側からの説明をもとに意見聴取
・ キャリアについては、総合的に専門分野の知識・技術を身につけることが大切
・ 資格取得については意識を持たせ指導していくことが大切
→ 資格取得指導における趣旨の徹底、キャリア教育を意識した進路指導の徹底、新たな取り組みの推進
「生徒会を中心とした学校の活性化への取組」部会
・ 委員は、企業経営者、地域関係者、PTA役員で構成
・ 生徒会の取組を説明後、熟議を実施
・ 学校行事等の運営方法について
→ 学校行事運営ノウハウを企業の視点から生徒たちにアドバイス、行事の工夫・改善へ
- c 分科会報告
・ 各分科会より報告
→ 委員に情報・方針の共有化

③ 第1回振り返り

(ア) 日 時：7月9日(火) 17:30～18:00

(イ) 参加者：校長、教頭、事務長、県教委事務局職員1名

(ウ) 主な内容：

- a 予算執行について注意事項の確認
- b 学校運営協議会で出た意見をどう学校運営に反映させていくかについて
- c 全校体制の作り方について
→ 教員に分科会を担当させることで、当事者意識を持たせる。

- ④ 第2回学校運営協議会兼実証研究委員会
 (ア) 日 時：10月16日(水) 13:15~16:00
 (イ) 参加者：学校運営協議会委員8名、教職員9名、県教委事務局職員1名、地域連携教育エキスパート1名、生徒(研究発表)4名
 (ウ) 主な内容：
 a 校内参観
 授業見学 「課題研究」
 商業科・工業科の「課題研究」授業をそれぞれ参観
 文化祭準備風景見学
 全校生徒の様子を参観
 b 生徒による研究発表
 「プログラミング講座による地域貢献
 ～ビジネスを学ぶ私たちだからこそできる提案～」
 c 中間報告(各分科会の経過報告及び各委員からの意見聴取)
 「学校運営、地域との共生、小中高連携への諸課題」部会
 「キャリア教育、地域社会に貢献する産業人の育成」部会
 「生徒会を中心とした学校の活性化への取組」部会
- ⑤ 第2回振り返り
 (ア) 日 時：10月16日(水) 16:10~17:10
 (イ) 参加者：校長、教頭、事務長、県教委事務局職員1名、地域連携教育エキスパート1名
 (ウ) 主な内容：
 a 予算執行について注意事項の確認
 b 学校運営協議会で出た意見をどう学校運営に反映させていくかについて
 c 各分科会運営について
 d 全校体制の作り方について
- ⑥ 第3回企画会議
 (ア) 日 時：1月16日(木) 13:30~14:30
 (イ) 参加者：校長、教頭、県教委事務局職員1名、地域連携教育エキスパート1名
 (ウ) 主な内容：
 a 第3回学校運営協議会の内容について検討
 b 来年度に向けた取組の検討
- ⑦ 第3回学校運営協議会兼実証研究委員会
 (ア) 日 時：1月30日(木) 10:10~12:00
 (イ) 参加者：学校運営協議会委員10名、教職員9名、県教委事務局職員1名、地域連携教育エキスパート1名、生徒(生徒会役員)5名
 (ウ) 主な内容：
 a 学校経営についての評価
 学校評価書をもとに概要説明及び意見聴取
 b 分科会
 「学校運営、地域との共生、小中高連携への諸課題」部会
 ・ 委員は、企業、同窓会、小学校・中学校関係者で構成
 ・ これまでの取組説明
 ・ 学校運営、地域連携について、ブレインストーミング法により意見聴取
 → 今後商売に繋がる教育について専門高校としてどのような教育をするのか、ビジョンを持つことが大切だ。
 → 全国でまだ取り組んでいないプログラミングを部活動で特化して行い、柳井市からもバックアップしてもらいながら、全国にPRしてはどうか。
 → これからはプログラミングに加えてデザインを学習させるとよい。
 「キャリア教育、地域社会に貢献する産業人の育成」部会
 ・ 委員は、地域関係者、同窓生、元企業役員で構成
 ・ 学校側からの説明をもとに意見聴取
 → 部活動での活躍(特にバドミントン部)も目覚ましく、そのことが進路に繋がりが、他の生徒へも良い影響を与えている。
 → 資格取得も大切であるが、挨拶ができるなど人として基本の部分が大切である。
 「生徒会を中心とした学校の活性化への取組」部会
 ・ 委員は、企業経営者、地域関係者、PTA役員で構成
 ・ 生徒会の取組を説明後、熟議を実施
 → 学校行事について、もっとPRの方法を工夫するとよい。
 → 教員、生徒ともに言葉遣いに気を付ける必要がある。
 c 分科会報告
 ・ 各分科会より報告
 → 委員と情報・方針を共有
 → それぞれ分科会でいただいた意見を来年度の課題に取り入れる。

- ⑧ 第3回振り返り
(ア) 日 時：1月30日(木) 12:00~12:45
(イ) 参加者：校長、教頭、事務長、県教委事務局職員1名、地域連携教育エキスパート1名
(ウ) 主な内容：
a 年間をとおした反省事項
b 来年度の課題について
c 全校体制の作り方について

(その他の取組)

- ⑨ 小学校プログラミング講座への取組
- ・ 柳井市立小田小学校への生徒による出前講義(8回実施)
 - ・ 柳井市立柳井小学校教員を対象とした生徒による出前講義
 - ・ 柳井市立柳井南小学校への生徒による出前講義
→ 学校運営協議会委員のアイデアを指導内容に具現化
- ⑩ 地域伝統文化「柳井縞」の継承活動
- ・ 柳井市立小田小学校への生徒による出前講義(8回実施)
 - ・ 2020縞プロジェクト(オリンピック開催に向けた柳井縞機織り活動)
山口県立周防大島高等学校・山口県立厚狭高等学校との連携
東京2020教育プログラム認証校
 - ・ 講師招聘活動(柳井縞機織り指導、先進地視察等)
→ 学校運営協議会委員による生徒への指導
- ⑪ 学校運営協議会におけるミニ熟議
→ 分科会において学校運営協議会委員と生徒とのミニ熟議実施
- ⑫ 意識啓発活動
- ・ 地域とともにある学校づくり推進フォーラム(文部科学省主催)への参加
→ 教員の意識啓発、情報提供
- ⑬ 柳井まつりへの参加
→ 様々な方面から学校をPRすべきという意見を踏まえ、今年度初めて機械科が参加
- ⑭ 文化祭における生徒会主催の募金活動
→ ミニ熟議から派生
- ⑮ 地域の方々との防災協働訓練
→ 委員の指導助言を一部取り入れた取組
- ⑯ 第46回中国五県商業教育研究大会 第2分科会「ビジネス情報分野」研究発表
→ 委員の指導助言を一部取り入れた取組
- ⑰ 第33回中国五県高等学校生徒商業研究発表大会 優秀賞
→ 委員の指導助言を一部取り入れた取組

【厚狭高校】

- ① 第1回企画会議
(ア) 日 時：6月20日(木) 16:00~17:00
(イ) 参加者：校長、教頭2名、事務長、地域連携教育担当教員2名、学校運営協議会委員2名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名
(ウ) 主な内容：
a 委員同士の関係について
→ 得意分野や強みを互いに知ること、発言しやすい雰囲気を作る。
b 学校の強みを明確にする。
→ 総合家庭科の他校との連携、小・中学校との連携
c 協議の活性化にむけて、生徒のプレゼンと熟議を提案
→ 2回目の学校運営協議会を重要な機会として位置付け

② 第1回学校運営協議会兼実証研究委員会

(ア) 日 時：7月1日(月) 15:30~17:00

(イ) 参加者：学校運営協議会委員12名、教職員5名、地域連携教育エキスパート1名、
県教委事務局職員1名

(ウ) 主な内容：

a 校長挨拶

b 出席者自己紹介

構成員は、同校に特に縁の深い方であること、地元や県内の学識経験者・有識者であることなどを加味して総合的に検討し、地域の学校関係者、本校関係者を加えて決定した。

→ 結果的に、中学校区内の小・中・高の学校運営協議会委員長が同一となり、今後3校の連携がより深まることが期待される。

c 山口県における地域連携教育についての説明

- ・ 学校運営協議会の3つの機能
- ・ 学校評議員と学校運営協議会委員の違い

d 学校説明

- ・ 定員割れが続いている。
- ・ 総合家庭科を地域連携の核としていく。

e 協議

- ・ 学校運営方針、学校評価書について
- ・ 学校運営協議会の活動について

→ 体育祭開催時に委員全員を招待し、3名(運営協議会委員長、副委員長及び委員)の参観を、また県内大学生を招いて、本校生徒がグループを作って様々なアドバイスを受ける場(カタリバ)に、運営協議会委員1名(運営協議会副委員長)の参加を得た。

→ 第2回学校運営協議会は、本校生による教育活動の紹介及び本校生徒を交えた熟議を予定している。

熟議の場の設定をし、子どもの姿や地域の未来について情報を共有する。

「つながる」ことをめざし、例えば教育課程において「つながる」としたらどの分野・教科になるか考える。

③ 第1回振り返り

(ア) 日 時：7月1日(月) 17:00~18:00

(イ) 参加者：校長、教頭、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名

(ウ) 主な内容：

a 学校運営協議員を通じて小・中・高連携

→ 学校運営協議会委員が異校種の学校運営協議会委員を兼任

b 生徒の資質・能力をつなげていく視点の重要性

c 学校運営協議会委員である公民館長の協力を得ながら地域に情報発信

④ 第2回企画会議

(ア) 日 時：11月8日(金) 15:00~16:00

(イ) 参加者：校長、教頭2名、事務長、地域連携教育担当教員2名、学校運営協議会委員2名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名

(ウ) 主な内容：

a 熟議について

→ 生徒と教職員を交えた熟議の実施。地域連携教育エキスパートによるレクチャー

b 学習成果の報告について

→ 学習成果の報告や生徒の高校生県議会への参加についての情報提供

⑤ 第2回学校運営協議会兼実証研究委員会

(ア) 日 時：11月18日(月) 15:30~17:30

(イ) 参加者：学校運営協議会委員11名、生徒8名、教職員8名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名

(ウ) 主な内容：

a 生徒による学校紹介及び学習成果の発表

→ 映像を交えたプレゼンテーションにより、生徒の活動状況の理解が深まった。

- b 学校運営協議会委員・生徒・教員による熟議
 - ・ 校長から学校の課題と教員の働き方改革について説明
 - ・ 地域連携教育エキスパートから熟議の意義・進め方等について説明
 - ・ グループワークⅠ「学校・地域等の強みと課題」
 - ・ グループワークⅡ「地域との連携・協働に向けて」
 - ・ シェアリング（グループごとの発表）
 - 生徒や教職員からの真摯な発言を受け、学校の状況への理解が深まり、学校の課題解決に向けた積極的な意見がいただけた。
- c 大学等訪問研修の実施について告知

⑥ 第2回振り返り

(ア) 日 時：11月18日(月) 17:30~18:00

(イ) 参加者：校長、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名

(ウ) 主な内容：

- a コミュニティ・スクールのテーマを決めるプロセスを委員と共有する。
- b 次回も熟議を行い、来年度第1回委員会で承認を受けるようにするとよい。

⑦ 第3回企画会議

(ア) 日 時：2月10日(月) 15:00~16:00

(イ) 参加者：校長、教頭2名、事務長、地域連携教育担当教員2名、学校運営協議会委員2名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名

(ウ) 主な内容：

- a 令和2年度学校経営ビジョンについて
 - 前回の熟議を受け、小中高の連携を意識した学校経営ビジョンのスローガンを策定
- b 令和2年度の具体的な取組について
 - 教育課程に位置づけられた地域連携を委員に知らせる。
- c 地域連携活動の課題解決に向けた熟議
 - 前回熟議のシェアリングシートを用いて、振り返りをしながらの熟議を実施を提案

⑧ 第3回学校運営協議会兼実証研究委員会

(ア) 日 時：2月21日(金) 14:30~16:45

(イ) 参加者：学校運営協議会委員6名、教職員9名、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名

(ウ) 主な内容：

- a 平成31年度学校関係者評価について
 - 各分掌主任等からの説明の後、学校関係者評価の承認を得た。
- b 令和2年度学校経営ビジョンについて
 - 前回会議の熟議の内容を踏まえた、新しいスローガン「誰かのために何かのために」を中心に据えた学校経営ビジョンが承認され、次年度の協議会において、これにもとづく学校運営方針・評価書を審議することとした。
- c 令和2年度の具体的な取組について
 - ・ 平成31年度の地域連携活動について校長から説明
 - ・ 地域連携活動の課題解決に向けた熟議
 - ・ シェアリング（グループごとの発表）
 - 中学生や地域にもっと厚狭高校を知ってもらうための改善案や、生徒の主体性・自己有用感を育むための企画の在り方について、積極的な意見交換ができた。

⑨ 第3回振り返り

(ア) 日 時：2月21日(金) 16:45~17:15

(イ) 参加者：校長、教頭、地域連携教育エキスパート1名、県教委事務局職員1名

(ウ) 主な内容：

- a 生徒の主体性を育てる地域連携の取組を深化充実させていってほしい。
- b 本日の熟議の内容を、来年度1つでも2つでも実現させることで、学校運営協議会が活性化する。

(その他の取組)

⑩ 大学等訪問研修

(ア) 日 時：11月28日(木) 14:00~15:30

(イ) 場 所：山口県立大学

(ウ) 参加者：学校運営協議会委員4名、教職員4名

(エ) 主な内容：

a 大学見学

b 大学における地域連携に係る研修

(オ) 成果等：

a 事前に委員や教職員から大学への質問を調査し、書面での回答を得ていたため、短時間でも内容の濃い研修となった。

b 大学における地域連携の取組の中で、資金繰りや教職員の負担が課題となり、持続可能な取組とするための工夫改善の説明があった。高校における地域連携の課題を委員に実感してもらえる良い研修となった。

⑪ コミュニティ・スクール連絡会議

(ア) 日 時：12月16日(月) 10:00~12:00

(イ) 場 所：山口県庁

(ウ) 参加者：校長

(エ) 主な内容：

a 県教委による所管説明

b 学校運営協議会の充実についての報告・意見交換

(オ) 成果等：

県内各校の参考となる取組を共有し、課題解決の示唆が得られた。

⑫ 「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム in 滋賀

(ア) 日 時：1月24日(金) 12:30~16:40

(イ) 場 所：滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール

(ウ) 参加者：地域連携担当教員2名

(エ) 主な内容：

a 行政説明

b トークセッション

(オ) 成果等：

学校運営協議会をテーマ毎の部会で運営するなど、全国の先進校の取組を知ることができ、今後、特色ある学校づくりにつなげていくための参考となる研修だった。

(カ) その他：

フォーラム参加と合わせて京都市立塔南高等学校へ先進校視察を行う予定だったが、日程調整が整わず、当該校から資料を提供していただき、紙上研修とした。

⑬ 学校運営協議会委員が関係する活動

(ア) 委員が運営する保育園での活動

a 保育園実習への生徒受け入れ(12月上旬)

b 保育園児のお遊戯会衣装製作(12月上旬)

c 「放課後遊び隊」(月1回、迎えを待つ保育園児の世話)

(イ) 洋菓子店を運営する委員からの支援

a 洋菓子講習会の講師(1月29日(水))

⑭ 学校運営協議会委員の学校行事等への参加

(ア) 厚狭高祭観覧(6月9日(日))

(イ) 体育祭観覧(9月7日(土))

(ウ) 「カタリバ」(大学生との進路等に係る懇談)観覧(9月20日(金))

(エ) オープンスクール参観(10月18日(金))

(オ) 総合家庭科ファッションショー観覧(11月17日(日))

(カ) 総合家庭科生徒による委員おもてなしランチ参加(11月19日(火))